

「食と環境」シンポジウムの開催

愛知消費者協会

【 概 要 】

平成 19 年 11 月 20 日に愛知県女性総合センター ウィルあいちで「明日に向けてよりよい暮らし」をめざして「食と環境」をテーマとしたシンポジウムを開催し、会員約 300 名が参加しました。県内 5 支部の代表から「食と環境」に関するアンケート調査（回答者は全体で約 1,600 名）の結果とその研究成果の発表及び質疑応答などを行いました。



シンポジウムの様子

アンケート結果では、各年代で「食品の廃棄を減らす努力をする」が圧倒的に多く、次いで「エネルギーなどの資源を有効に使う」、「分別回収やリサイクル活動に協力する」でした。また、「レジ袋を断る」という回答も多くありました。

【成果や今後の取組等】

このシンポジウムは、協会活動の一年をかけて取り組んだ成果の発表であり、会員はアンケート調査の実施とその分析、研究発表を通して、日々の便利で快適な生活習慣のあり方や食生活と環境との関わりについての意識を高めることができました。

今後はこの成果を基に、環境に配慮した食生活の見直しやエコ活動の実践を地域に根ざした活動として推進していきます。

あいちの水産企画展の開催

愛 知 県

【 概 要 】

あいちの魚、漁業や海的环境などについて、広く県民に理解を深めていただくため、(財)名古屋みなと振興財団との共催で、あいちの水産企画展「目からウロコ!!あいちの魚～漁法でみる愛知の漁業～」を平成 19 年 7 月 14 日から 9 月 2 日まで名古屋港水族館で初めて開催しました。

会場では、本県の漁業の現状や海的环境などを解説したパネルや本県の主な魚介類、漁具の実物や模型を展示しました。7 月 16 日には、愛知県水産試験場長が記念講演を行いました。クイズには小学生を中心に約 8,200 人から応募があり、開催期間中は約 95,000 人の入場があり大変盛況でした。

【成果や今後の取組等】

この企画展は、集客力のある水族館で開催することにより、大変多くの方々に本県の漁業や海的环境などについて理解を深めていただき、本県水産物への関心が高まったものと考えます。

今後はこの成果を踏まえ、より一層本県水産物の PR に努めていきます。



展示に熱心に見入る来場者



アサリの水質浄化実験展示

親子で食育！ 地産地消 親子料理教室の開催

社団法人愛知県栄養士会

【 概 要 】

愛知県と協働して身近な農業や望ましい食生活の話、調理実習を通して親子で食育に関心を持つことを目的として、夏休みの期間に県内7地域で「地元の農林水産物を活用した親子料理教室」を開催し、85組202名の親子が参加しました。



楽しく調理実習に取り組む参加者

【成果や今後の取組】

参加者からは「これからもこういう機会を持つようにしたい。」「地産地消を考えて、なるべく地元でとれたものを食べる。」などの感想があり、家庭での食育への関心（一家団らん、地産地消など）を高めました。

今後もこの成果を基に「親子料理教室」を通して食育の推進を図ります。

◆開催状況

7月22日	三好町明越会館
7月27日	半田市学校給食センター
7月28日	津島市総合保健福祉センター
7月29日	瀬戸市山口公民館
8月3日	岡崎市南部市民センター分館
8月7日	豊橋市下条小学校
8月19日	鳳来開発センター

「父の日」にちなみ知事へ牛乳を贈呈

愛知県酪農農業協同組合青年女性部

【 概 要 】

愛知県酪農農業協同組合青年女性部は、県内酪農家の後継者及び婦人382名からなる組織で、全国酪農青年女性会議と連携して6月の第3日曜日の「父の日」にちなみ、平成19年6月11日（月）に愛知県公館において、県内の父親代表として、愛知県知事に本県産の牛乳（ちち）を贈りました。

【成果や今後の取組等】

牛乳には、骨粗鬆症をはじめとする生活習慣病の予防、イライラの解消や快眠効果など多くの効果が期待されています。

このような取組により、県内産牛乳・乳製品の消費の拡大とともに、県民の健康の増進に寄与していきます。



キャンペーンポスター



最近の酪農情勢について歓談



知事と牛乳で乾杯！

「ふるさと農林水産フェア・秋」で地産地消・食育をPR

実行委員会（愛知県、名古屋市、中日新聞社、東海テレビ放送）

【 概 要 】

平成 19 年 10 月 5 日から 7 日まで名古屋市の吹上ホールで「ふるさと農林水産フェア・秋～おいしい自然の恵み、菜^{さい}発見～」を開催し、74 団体 188 ブースの出展により実際に体験できる内容や展示、本県農林水産物・加工品の販売などを数多く行い、地産地消や食育の普及を図りました。3 日間で 25,762 人の来場者でにぎわいました。

【成果や今後の対応等】

このフェアは 2 回目ですが、地産地消や食育を広く紹介するよい機会となっており、平成 20 年度も開催して地産地消や食育の普及に努めます。



来場者で賑わう会場



本県特産のてん茶石臼挽き体験

「エコファーマー」の認定を推進

愛知県

【概要】

平成12年度から環境に優しい農業に取り組む生産者を「エコファーマー」として認定し、その活動を応援しています。「エコファーマー」とは、土づくりを行い化学肥料や化学合成農薬を減らす農業に取り組む計画を作成し、知事の認定を受けた農業者の愛称です。平成12年度は18名でしたが、平成19年10月には3,580名と大きく増加しました。

この認定を受けた農業者は、自分が作った農産物にロゴマークを付けて出荷し、消費者にアピールすることができます。

平成19年2月14日には、「JAあいち中央チンゲン菜部会」（安城市）が、全国規模の第12回環境保全型農業推進コンクールで農林水産大臣賞を受賞するなど優秀な活動が展開されています。

【成果や今後の対応等】

「エコファーマー」の制度が農業者に普及し、本県農業関係者全体の環境に優しい農業に対する意識の向上にもつながっています。今後も、この制度をはじめ農業生産の各工程での管理を進めることなどにより、今まで以上に環境と安全に配慮した農業を推進します。



エコファーマーの
ロゴマーク



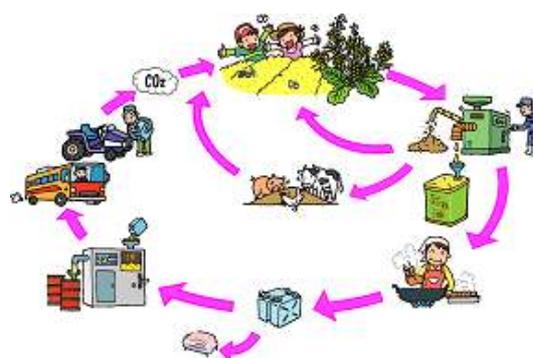
エコファーマーによる
店頭でのPR活動

バイオディーゼル燃料の実用性をトラクターでPR

愛知県

【概要】

平成17年度から資源循環型地域づくりのひとつとして、「菜の花エコプロジェクト」を広める取組を進めています。これは、菜の花を栽培し、菜種油のしぼりかすを肥料等にしたり、天ぷらなどに使った菜種油を回収して燃料として再使用するものです。平成19年度は、岡崎市にある県立農業高等学校で7月から9月にかけて8回開催した研修の中で、トラクターの燃料に名古屋市内の小中学校等の学校給食で使われた天ぷら油から精製したバイオディーゼル燃料（BDF）を使って実用性をPRしました。209名の参加者は、BDFが通常使われる軽油と比べて馬力などに遜色ないことを確認しました。



菜の花エコプロジェクトのイメージ図



BDFを使用したトラクター

【成果や今後の対応等】

BDFは、環境にも優しいことが参加者に理解され、BDFに対する関心も高まりました。今後も資源循環の一つとしてこの取組を進めていきます。